

# 六甲カトリック教会 教会報



## 6月の風



緊急事態宣言は延長されましたが、アルフレド主任司祭の熟慮の判断で、6月5日（土）からミサが再開されることになりました。止まっていた時計が動き出した感じです。ただ、この措置は6月20日のミサまでの暫定措置です。ミサはあくまで少人数の非公開で、ミサに与れるのも六甲の信徒に限られます。その先はまだわかりません。不確定要素が多いのはやむを得ないところです。長い間自粛生活を続けていた私たちに、ミサに与れる喜びが湧いてきます。しかし、実情はまだコロナ一掃というレベルではありません。ギアを少しずつ上げながら前後左右確認、さらに安全、安心の環境を保ちながらのミサ再開です。手洗い、消毒、マスクなどは依然必要です。

ミサは以前よりさらに細かく地区別に分散して与ることになります。休止されている小教区評議会、地区会の活動、財務報告会など、眠っている教会活動も少しずつ「活」が入れら



れることでしょう。ワクチン接種は普及しつつあります。感染者が段階的に減り、病院の逼迫状態も収まればひとまずほっと一息というところではないでしょうか。いっぽう重症者や死者の数は限りなくゼロに近づいて欲しい。変異ウィルスの出現、拡大も大きな不安のたねです。まだまだコロナは未解決です。ノアは方舟から飛び立ったハトがオリーブの枝を啜って持ち帰ったのを見て、洪水が収まったと察知しました。まだまだ洪水は引いていません。集団免疫が確立し、世界のパンデミックが収まるのにはいつになるのでしょうか。希望のハトを待ち望みます。（編集部）

## ◆◆◆教会事務所の人事 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

長らくお世話になった事務所の黒澤まさみさんが5月一杯で退任されました。新しく6月から川畑眞弥子さんが赴任されています。また4月から西川葉さんが週1日ですが事務所に加わっています。新しい陣容は大鶴さん、西川さん、川畑さんの3人になりました。2月に転出された赤木涼子さんを含め、新旧のご挨拶をいただいています。

### 黒澤 まさみさん

神様の計らいと思える経緯により教会の事務所の一員となり、約20年の年月が過ぎました。多くの教会行事に携われた事、多くの方々とお近づきになれた事、泣いたり笑ったりした事など、良き経験や思い出がたくさん出来ました。行き届かないところも多々あった事と思いますが、寛大な心で受け入れて頂きありがとうございました。今後は一信徒として新たな気持ちで歩んでまいります。皆様に深く感謝申し上げます。

### マリア アガタ 赤木 涼子さん

六甲教会の信徒として約10年、事務室では週1回の勤務でしたが4年弱の間お世話になりました。神さまの愛が六甲の兄弟姉妹を通して溢れてくることをいつもしみじみと感じ、力をいただいていた。子どもたちの思春期も教会なしでは元気に乗り切ることが出来なかったと確信しています。六甲教会での日々はこれからも私の信仰生活の支えとなります。本当にありがとうございました。またどこかでお会いできたら嬉しいです。



西川 葉さん

4月から週1日事務室で働くことになりました西川 葉（にしかわ よう）と申します。2年前の春、岡山教会から家族と一緒に転入して参りました。ご縁があって神戸に住むことになり、神父様や教会の皆さんと出会うことができ、感謝しています。普段は聖歌隊でミサや葬儀など、歌の奉仕をさせていただいています。

まだまだ分からないことが多く、仕事をしながら一つ一つ皆さんに教わっているところです。ご迷惑をおかけすることがあると思いますが、どうぞ宜しくお願いいたします。



川畑 眞弥子さん

このたび6月より事務所で働くことになりました川畑眞弥子と申します。小さい頃から慣れ親しんだ教会、現在は子供たちが教会学校でお世話になり、神様の愛を頂いて育ってきました。いつも周りの方々から助けて頂いて過ごしてきましたが、今後は教会を通じて皆様のお力に添うことができればと思っております。微力ながら一所懸命努めて参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 聖歌を歌い続ける

＝音楽チーム報告＝



コロナ自粛中、聖歌隊は全ての活動を休止しています。かろうじてお葬儀の際の聖歌奉仕に少人数が列席、マスクを手放さないようにしてお見送りしています。ミサ中も会衆とご一緒に歌うことが出来ず、信徒の皆様の中にはフラストレーションが溜まっている方もいらっしゃるのではないかとお察しします。聖歌を忘れそうな教会、音楽チームとして何か工夫はないものかと、聖歌隊の独唱者メンバーが典礼聖歌を

歌い、録画して youtube にアップすることを思いつきました。緊急事態宣言中のがらんとした主聖堂に、マイクとビデオカメラを設置、数々の聖歌の中から、よく耳になじんだ歌や教会暦に沿った歌などを中心に歌っています。独唱、二重唱などバラエティに富み、またオルガン伴奏のほかにギター伴奏もあり、楽しい画面となっています。いつでもパソコン、スマホで覗くことが出来ます。キーワードは「六甲カトリック教会音楽チーム・典礼聖歌」です。youtube 画面では歌詞をテロップで流してしていますので、一緒に歌うことが出来ます。 (典礼部音楽チーム 三浦優子)



## 今月の聖人 6月

### ☆洗礼者聖ヨハネ

6月24日は洗礼者ヨハネの誕生日。誕生日が記念されているのは主イエス(12月25日) 聖マリア(9月8日)とヨハネだけだそうです。イエスの誕生は冬至のころ、ヨハネは夏至のころに生まれているのも何かを暗示しているようにも見えます。ヨハネはイエスの先駆者として独特の存在を発揮し、激しく民衆を啓蒙します。そしてやがてイエスに洗礼を授けます。しかし「わたしの後から来る方(イエス)は、わたしより優れておられる。私は、その履物をお脱がせする値打ちもない」(マタイ3-11)とあくまで控えめです。同様の記述はマルコにもあり、マルコはその福音書の冒頭にヨハネについて詳しく述べています。伝えられるヨハネの最期は劇的で、マルコ6章14節から29節にかけて記載があります。ヘロデ王と王の後妻ヘロディア、その娘の暗躍でヨハネは首を刎ねられます。娘の名は聖書には出て来ませんが、この物語を下地にしたオスカー・ワイルドの戯曲「サロメ」の主人公として有名になりました。写真はレオナルド・ダ・ビンチが描いた洗礼者ヨハネ。イメージと違って甘い顔立ちです。 (詫 洋一記)





## 趣味百景 箏 曲

馬場 清子（芸名 角丸清子）

昔から子供のお稽古事は6歳6月6日に始めると良いと言われていましたが、私も学生時代に箏を習っていた母に勧められ、宮城会大師範の亀井喜代子先生に6歳6月6日から手ほどきを受けました。先生は明石にお住まいでしたが、私の実家のすぐそばの三宮神社にお稽古場を持っておられたので、そこに通っていました。その後大阪音楽大学器楽科箏専攻科に進み、宮城会の須山知行先生、中島警子先生、そして人間国宝でいらした菊原初子先生等すばらしい先生方にご指導いただき、卒業時には卒業演奏会に出演いたしました。

その後結婚して2人の娘ができ、一時期箏から離れていましたが、1999年学生時代共に勉強してきた友人達と4人で沙羅の会を結成して箏を再開しました。2001年には六甲教会のイグナチオホールで第1回沙羅の会チャリティーコンサートを開き、それから数々の演奏会に出演いたしました。古典から現代曲まで、またメンバーの編曲による映画音楽やジャズ等も演奏し、箏の美しさや楽しさを皆様に知っていただきたいと活動を続けています。そして2008年にはフルート奏者の山本ありさんと玉響（たまゆら）を結成し、NHK神戸支局オープンスタジオで七夕コンサートを開催し、その後神戸青少年科学館プラネタリウムでの星空コンサート等に出演しました。そして2015年には神戸朝日ホールで角丸清子邦楽リサイタルを開きました。

演奏活動の他に兵庫県のわくわく体験教室や神戸市の子供伝統音楽育成事業で、小学生の音楽の授業の中で箏と尺八の演奏をし、また実際に触れてもらっています。それから現在は県立明石高校と松蔭中学校・高等学校の箏曲部の講師もしています。

子供の頃から箏や三絃を弾くことが大好きでしたが、今も全く変わらず、これまで以上に皆様のお心に響く演奏ができるよう勉強を続けてまいります。



## ◆ 聖霊、来てください ◆

うっとおしい梅雨が、いつ始まるのか気になる。先日は夏の暑さに備えて、衣替えを行った。随分とお世話になった厚い冬用のオーバや毛糸のセーターをしまい込み、明るい色のズボンや薄手のシャツや靴下を取り出した。入浴時に使った重いガウンは、洗濯する必要があった。入れ替えを要する衣類が何と多いことか。いずれ入梅、雨が降り続く蒸し暑い長雨、間もなく酷暑の日々、きっと眠れない辛いと、今年も不平をこぼすことだろう。

5月23日には聖霊降臨の大祝日、残念ながら緊急事態の発令で公やけに盛大な祝いは出来ない。それでも確実に言えることは、私たちが聖霊の時代を生きているという事実である。しかし問題は、私たちの信仰にどのような関りがあるのか、また今の時代に聖霊はどのように働いているのかという疑問である。先ずパウロの祈りが心に浮かぶ。「主イエスの恵み、神の愛、聖霊の交わり」をコリントの信徒のために懇願するが、私たちのミサ聖祭も必ずこの祝祷ではじまる。ここで聖霊には交わりが帰され、恵みと愛があるところに必ず伴い溢れる心の通い合いである。神の先立つ恵みと愛が無いところに交わりは無い。うわべの薄っぺらな交わりは、単なるお作法や虚礼となるばかり。父なる神と主イエスの間に絶えず交わされるイノチの交流、愛と恵みのカヨイ合いこそ聖霊なのだ。キリスト者がこの交わりを信じ受け入れ宣言することによって、つまり洗礼によって、私たちは恐れ多くも神の霊が宿る聖霊の生きた神殿となる。その意味では、感謝の祭儀でパンはキリストの身体に、ブドウ酒はキリストの血に変わるが、もっと驚くべき事・強調すべき聖変化は、相互に私たちが聖霊の生きた神殿とされている恵みの現実・信仰の神秘を共にほめ

称えることである。

パウロの聖霊理解で次に注目されるのは、聖霊の恵み・カリスマの教えである。全てのキリスト者は例外なく、それぞれ独自の賜物・カリスマを戴いている。それはひとえに、キリストの体である救いの御業を実現するために、教会の宣教や司牧のためである。もっと具体的に言えば、それは私たち独自の人となり・個性を通じて、また神が与え認め結ばれた御縁というシガラミ・人間関係の網目を通して、外ならぬ私に託され私だけが果たせる役割である。たしかに私は逃げも隠れも出来るが、余人をもっては代え難いものである。別の言葉で言い換えれば、私にのみ託された召命 ヴォケーション Vocation である。この語の従来使い方は、余りに狭く特殊な生き方や選びにもっぱら司祭や修道者に限られていた。しかし召命は洗礼を受けた全キリスト者が、生涯をかけて探し求め生き抜くカリスマ聖霊の道である。

パウロの聖霊理解を私なりにさらに実践的に言い表すとすれば、夫と妻が「わたしたち」として、共に生き共に老いることを共有するならば。キリスト者とイスラム教徒が「わたしたち」として、地球環境の保全に協力するならば。先進国と後発国が「わたしたち」として、貧困と暴力と不正に立ち向かうならば。固有の伝統・歴史・文化を持ちながらも、また財力・権力や知識・経験の大きな隔たりを抱えながらも、「わたしたち」として歩み寄り、仲間・同志として対話し協力するならば、それこそまさに聖霊の働きである。私とあなたがぶつかり合い、対立や不和が生み出される時に、「わたしたち」という交わりに聖霊に立ち返れますように。聖霊よ、来てください。

合掌

【 2021 年 6 月予定表 】

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
					◎東灘北2・芦屋	
6	7	8	9	10	11	12
キリストの聖体					イエスのみ心 ◎東灘南	
13	14	15	16	17	18	19
年間第 11 主日					◎灘北 1・北・三田	
20	21	22	23	24	25	26
年間第 12 主日 ◎日曜班				洗礼者聖ヨハネの誕生		
27	28	29	30			
年間第 13 主日 聖ペトロ使徒座への献金		聖ペトロ 聖パウロ使徒				

◎は掃除当番地区です

【信徒動静】



【転入】これからどうぞよろしく

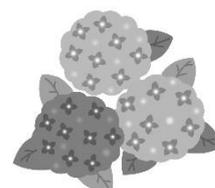
5月10日	アジのフランシスコ	山田 順彦
〃	クララ	山田 哲子
〃	アンドレア コルシニ	山田 耕治
〃	ヨゼフ	山田 慎治

【帰天】永遠の安息をお祈りいたします

5月19日	マリア	木暮 陽子
5月26日	ミカエル	熊澤 政一

◆◆ 編集後記 ◆◆

最近、白い蝶は見かけますが、黄色の蝶は全く見かけません。子供のころ、あたりまえにいた蝶が今はいません。どうも絶滅危惧種に指定されているようです。絶滅危惧種といえば、イリオモテヤマネコやツキノワグマなど動物ばかりに目が行きがちでしたが、昆虫の世界もなかなか厳しいようです。 (遠藤 眞理)



<p>次回7月号の発行は、7月3日(土)です。</p> <p>原稿は毎月15日ごろまでに教会受付へ直接ご持参いただくか、FAX やメールでお願いいたします。皆様からの原稿をおまちしております。あわせてご意見もお寄せください。 (広報部)</p> <p><a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a></p>	<p><b>六甲カトリック教会</b></p> <p>〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21</p> <p>電 話 078-851-2846</p> <p>F A X 078-851-9023</p> <p>E-メール renraku@rokko-catholic.jp</p> <p>発行責任者 アルフレド・セゴビア</p> <p>編 集 広 報 部</p>
---	---